京都市
みどりのボランティアセンター　ニュースレター

令和8(2026)年 10月号

京都市みどりのボランティアセンターより、みどりのボランティア活動や地域での活動のご参考としていただくため、市内各所の活動実例やみどりに関する情報をご紹介します。

令和7、8年度に完成した雨庭のご紹介



阪急桂駅西口の雨庭(令和8年3月完成)





西大路三条交差点の雨庭(令和8年4月完成)



京都市では、近年多発するゲリラ豪雨等による浸水被害に対して、雨水を一時的に貯留し、下水道への負荷を軽減させることにより、浸水被害の軽減を図ることができる「雨庭」について、平成29年度から京都の庭園文化の技術を活かした整備を進めています。令和7年度と8年度にそれぞれ1箇所ずつ、新たに2箇所の雨庭が完成しました。

今号では、2箇所の雨庭の施工を担当された京都市内の造園業者さんから、その経緯や空間づくりの考え方をお尋ねしました。

次ページに続きます

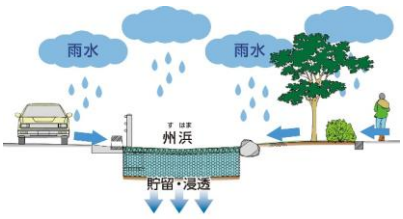
この二次元コードから、
京都市の「雨庭整備位置図」
をご覧いただけます

阪急桂駅西口の雨庭
西大路三条交差点の雨庭　施工した造園業者さんにお話を伺いました

雨庭をつくったのは初めてですか？

　雨庭づくりはこれが初めてでした。ただ、以前から京都市で整備されてきた雨庭を見ていたため、興味はあり、いつか機会があれば雨庭づくりにチャレンジしてみたいと考えていました。

雨庭のイメージ









▲阪急桂駅西口の舟石（上）と舟着き場（下）。どちらも大きさ、色味ともにイメージにぴったり合う石が偶然見つかったそうです。

整備した雨庭について教えてください

　阪急桂駅西口の雨庭は、駅西口のバス停（ロータリー）にあり、地上から駅に上がるための階段と跨道橋、発車を待つバスの乗客、周りの道路を通過する歩行者や自動車と、様々な場所から見ることが想定されます。それぞれのポイントを何度も行ったり来たりして、植物や景石の配置を微調整しましたが、最も人数が多いと考えたバスの乗客からの視点を重視しています。それから、この庭は水運が盛んだったころの、いにしえの桂川をイメージしたものなので、舟石と舟着き場を設置しています。

　西大路三条交差点の雨庭を鑑賞する視点は、桂駅の庭とは対照的に、南西側の歩道から交差点の中心に向かって北東を見る方向の1つだけです。メインになる真正面とその左右の計3つの島をつくって立体感を出しました。また、ここはとても日照が強く、地被（背の低い植物の総称）が暑さに耐えられるか心配でしたが、前の植栽にリュウノヒゲが乾燥に耐えて残っているのに気づいて、地被にはリュウノヒゲを選びました。

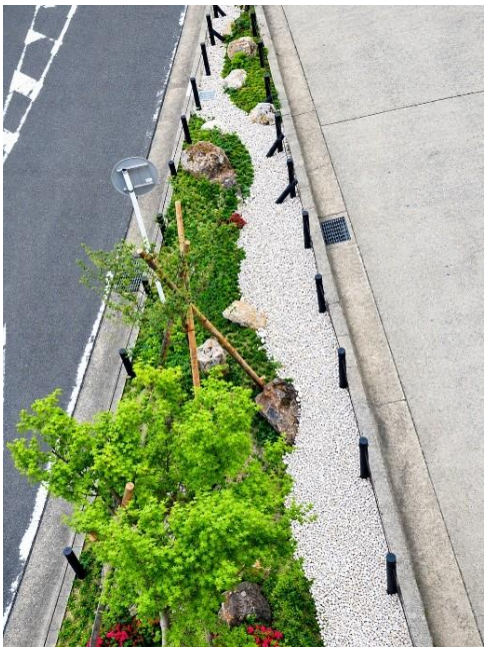
雨庭づくりで苦労されたことは何ですか？

　交通への配慮と美しい景観を両立させたことです。2箇所とも公共の道路につくりますから、木の枝葉で道路の見通しを妨げないようにしなければいけません。西大路三条交差点の雨庭の高木は、車で交差点を左折したときに曲がった先が見えなくならないよう、下枝を剪定したうえで向きを調整しました。桂駅西口の雨庭のほうは3本の高木を植えましたが、車からの視界が木に遮られないよう、木と木の間隔にはかなり配慮しました。

【雨庭づくりをふり返って...】

　施工にあたり、京都市の担当者様とは何度も協議を重ね、お互いの空間づくりの考えを共有して作庭できたと思います。使わなかったものも含めて選定した全ての景石を確認していただき、2箇所とも大きめの景石を使うことでメリハリのある庭ができました。

　美しさだけでなく災害防止にも役立つ雨庭、今後も増えることを期待しています。



▲阪急桂駅西口の雨庭の州浜と島は、それぞれ桂川の流れと西京区護岸の形をイメージしたもの。

公園愛護協力会の活動紹介 ― 七瀬川公園愛護協力会（伏見区）



▲公園前の道路からも目を惹くタイタンビカスの花壇の前で記念撮影

深草地域の七瀬川沿いにある七瀬川公園で活動されている七瀬川公園愛護協力会は、今年「第37回『みどりの愛護』功労者国土交通大臣表彰」を受賞されました。





▲公園内の花壇（左）・水やりの様子（右）









▲清掃活動の様子。落ち葉掃除、ごみ拾い、除草作業を行います。

毎月第2日曜日の8時から1時間程度行う清掃活動や、土木みどり事務所の許可を得て公園内での花壇作りに取り組まれており、夏の取材時には大輪のタイタンビカス（アオイ科）が花を咲かせていました。また、毎週火曜日の9時半から行われる「深草あおぞら公園体操*」も会の活動として位置づけられています。

会員は公園体操の参加者を中心とした地域住民で、各活動日には15～20人が参加されます。メンバーにお話を伺ったところ、「ほかにも近くに何箇所か公園はありますが、子どもや孫は自然とこの公園を選びます。公園への恩返しのため、自分にできることがあればと思って取り組んでいます。愛護活動は、自身の健康づくりも兼ねた子どもたちへの無言の教育です。」とのことでした。会長の髙桑さんは、「公園の環境整備が愛護協力会の仕事です。捨てられた大型ごみに驚くこともありますが、何度でも繰り返し片づけることが大事。これが啓蒙活動です。」とお話されました。



▲「第37回『みどりの愛護』功労者国土交通大臣表彰」の表彰状を持つ髙桑会長



▲あおぞら公園体操がお休みになる7～8月は、無理のない範囲で有志が独自に実施。ほぐし運動とラジオ体操を行います。



＊京都市深草中部地域包括支援センター、京都市深草・醍醐地域介護予防推進センター、地域のデイサービスセンター等との協働で実施

京都市からのお願い

クビアカツヤカミキリの情報提供をお願いします

サクラやウメなどのバラ科樹木を枯らす外国産のカミキリムシ「クビアカツヤカミキリ」が国内で分布を広げています。京都市でも令和6年7月に西京区で初めて成虫が発見されてから、年々被害が拡大しており、**令和8年8月には、北区で初めて被害が発生しました。**

被害を発見しましたら、情報提供いただきますよう、お願いいたします。

京都市情報館 ▶ クビアカツヤカミキリについて

クビアカツヤカミキリの被害を防ぐためには、侵入初期の対策がたいへん重要です！



胸部（クビの部分）が赤い

全体は光沢のある黒色

体長…約2～4cm

クビアカツヤカミキリとは？

・日本では平成24年に初めて確認された外来種のカミキリムシです。
・サクラ、スモモ、ウメ、モモなどの生きたバラ科樹木に産卵し、幼虫が木の中を食い荒らします。被害木は衰弱して枯れてしまいます。
・強い繁殖力をもち、メス成虫は生涯で平均350個の卵を産みつけます。

◀オス成虫（写真出典：環境省ホームページ）
https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/species/kubiaka.html

侵入するとどうなるの？

・定着後の根絶は非常に難しいとされています。
・被害を受ける木は、観光や農作物、文化的側面で重要な種類が多く、生活の豊かさが損なわれる可能性があります。
・食害を受けて弱った木が倒れたり、枯れ枝が落ちたりして、事故につながるおそれがあります。
・被害木は伐採し、焼却処分等をします。

サクラ、ウメなどのバラ科樹木に注意！

●クビアカツヤカミキリと思われる昆虫がいた
（黒くて、首が赤いカミキリムシ）

●クビアカツヤカミキリのものと思われるフラス*を見つけた
（＊幼虫が木から排出した、木くずとフンが混ざったもの）



▲（左）サクラの幹にとまっている成虫
（右）木から掘り出した幼虫



▲フラスの形は、うどんや かりんとうに似ています

見つけたらどうすればいいの？

1．ホームページ「クビアカツヤカミキリ調査」にアクセス

2．発見日・発見場所・写真等を入力

どなたでも情報提供いただけます。
ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

クビアカツヤカミキリ調査

【お問合せ先】
京都市環境政策局環境企画部 環境保全創造課
（TEL. 075-222-3951）

※クビアカツヤカミキリは、外来生物法の「特定外来生物」に指定されており、生きたまま運んだり、飼育したりすると罰則の対象になります。捕まえた場合はその場で踏みつぶすなどして速やかに殺処分してください。

昔から親しんできた木を、みんなで守りましょう！

公園愛護協力会／街路樹サポーターの参加者 募集中！

皆さまのお近くに、公園／街路樹の清掃・除草等の維持管理をボランティアで実施する公園愛護協力会、街路樹サポーターの活動に興味をお持ちの方がおられましたら、ご参加の呼びかけをお願いいたします。

▲（左）公園愛護協力会
（右）街路樹サポーター
案内ページ（京都市情報館）



▲七瀬川公園愛護協力会の談笑のひと時。地域住民同士のつながりづくりも意識して活動されています。

お気軽にご相談ください

京都市みどりのボランティアセンター
電話：075－352－2535（梅小路公園内専用回線）
場所：梅小路公園緑の館2階ロビー（京都市下京区観喜寺町56-3）
時間：午前9時～午後5時まで 月曜日を除く毎日（年末年始12月28日～1月4日休み）